

(第4期) 第3回南部町行財政運営審議会議事録

日時 平成26年1月22日(水) 午後1時～午後3時15分

場所 南部町役場法勝寺庁舎(大会議室)

出席委員: 仲田和男、田中卓也、内藤眞哉、橋谷守江、林原敏夫、種治孝(委員敬称略)

町出席者: 陶山副町長、加藤課長、滝山統括専門員、前田主幹

| 発言者 | 内 容 |
|----------------------------------|--|
| 【開会】 加藤課長 | 大変お忙しい中お集まりいただきありがとうございました。第3回ということになりますが、引き続き大綱素案の審議を行っていただき、最終の答申をお願いしたいと思っております。 |
| 【日程1(1) 会長あいさ つ】 仲田会長 | 第3回の審議会という事で天候の悪い中お集まりいただきまして、ありがとうございました。今日は暮れから審議していただいて大体今日で結審が出来ればと思っております。皆様のご意見をお願いします。 |
| 【日程1(2) 副町長あいさ つ】 陶山副町長 | 大変お世話になっております。大分ご議論いただきまして第三期の行政改革大綱もかなり研ぎ澄まされたものになって来ているのではないかと思います。本日の開会に当たりまして何点か修正を掛けた点がございます。大事なところだけ説明します。共通認識としまして、人口が減少するという事はいたしかたないけれど、将来を担ってくれる子供や青少年の数が減るという事は何としてでも頑張らないといけないのではないかと思います。将来南部町を背負ってくれる、この少子化をどうするのか。これが一つの行政の大きな課題であろうと。財政が良くなっても未来を担う子供たちがいなくては何のためにやっているのか分からない。それから防災のことであります。いよいよ全国の中でも原発に対する問題がいろんなところで取り上げられています。南部町が好意にしています福島県の伊達市は原発から90キロ離れているということでございます。南部町は37キロ離れていますが、伊達市は除染作業に追われる中で地域住民との協働などが全く進まない、そういうジレンマの中で田んぼや民地の除染が毎日の行政の大きな仕事になっている。原発に対する危機管理もやはり一定行政改革の大きな柱ではないかということも皆様とご議論いただきたいと思います。いよいよ今年は合併して10年になりました。一つの大きな節目だと思っております。合併の時に約束してまだ出来なかったこと、水道の統合等もございます。水道の統合もせずに同じ水を飲み |

| | |
|--------------------------------------|---|
| | <p>ながら簡易水道、上水道、さらに二つの地域で単価が違う。そういう問題もあります。色々な問題を含みながら3か年間の大綱を作っていただく訳で、完璧と言うのはなかなか難しいかもしれませんが、審議の過程で大事にしなくてはいけないものを皆さんとの共通認識の中で一步でも良いものに近づけるように頑張りますので、ご協議いただきますことをお願いしてご挨拶とします。</p> |
| <p>【日程2】</p> <p>仲田会長</p> <p>前田主幹</p> | <p>【議事】</p> <p><u>(1) 第三期南部町行政改革大綱(素案)について</u></p> <p>それでは早速議事に入りたいと思います。皆さん資料はございますでしょうか。昨年から今日で第3回目になります。今日で大綱の意見を集約して行きたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。それからこの大綱の中に書いてない場合は附帯意見として付け加えたらと言う具合に思っております。そういうことも含めながら皆さんのご意見を願ひします。それでは事務局より資料の説明を願ひします。</p> <p>それでは資料1、2と続けて説明させていただきます。まずは資料1、大綱素案に対する意見への回答についてです。まずこのいただいた意見で大綱の修正を掛けたということはありません。アドバイスのご意見をいただいたのかなと思っております。それでは1ページ目から、必要性についてです。「確実にステップアップしてきています。特に地域振興協議会は進歩しました。」という意見をいただいております。これにつきましては、財政面からの行政改革に並んで行政への住民参画は重要な取り組みだと認識しております。今後とも地域振興協議会を核としたまちづくり、また様々な団体等との連携による住民参画のまちづくりを進めて行きたいと思ひます。ということで回答とさせていただきます。続いて「町長マニフェストとの連携は不可欠」ということでございます。これは位置づけという事で大綱に盛り込んでいたものですが、まちづくりの基本指針である総合計画、町長マニフェストの効率的な目的達成のため、また新たに直面する課題等への確に対応できる組織づくりの指針として位置付けて策定します。としております。続いて新しい行革の観点ということで「局地的ゲリラ豪雨対策が急務です。」という意見です。近年、行政はゲリラ豪雨に限らず様々な課題に直面しています。それらの課題に迅速かつ的確に対処できる組織づくりが必要だと考えています。そのための改革大綱であり、また具体的な取り組みについては実施計画で検討したいと思ひますので、ご意見をいただければと思ひます。続いて東日本大震災を受けてというところで、「平成23年元日の大雪を契機として、地球の気象は厳しいものとなりました。自然に力に対して謙虚であり、まずは危機マップを共有する必要があります。自分の命は自分で守る。」というご意見をいただきました。これにつきましては、現在、急傾斜崩壊危険箇所・土石流危険溪流・浸水区域などを示したハザードマップを全戸配布しております。引き続き住民の方へ情報を提供することで日ごろの備えなどをさせていただき、一緒に災害に強いまちづくりを進めて行きたいと考えております。推進期間についてのご意見です。「平成29年3月31日に具体的に何を成果物とするのか、明示することが肝心で</p> |

す。「結果を見る」だけなら活動の意味はありません。」というご意見をいただきました。これについては第二期の反省でもありますが、ご指摘の通り、成果物・目標数値を掲げて行きたいということで、推進期間は3年としています。実施計画は単年度ごとに達成目標を定め取り組みを進めたいと思います。今後は、実施計画の進捗状況についてもご意見をお願いします。2ページ目、住民との連携による災害に強いまちづくりについて。「町内どの地域がどのように危ないのか、危機マップはありますか。」というご意見です。「町内全域のハザードマップを作成し、全戸配布しております。組織の危機管理体制の強化に合わせ、地域の防災力の向上に努めて参りたいと思います。3ページ目、人口推移グラフについて。「平成16年度から17年度は93名の人口増であった。この要因の中から将来に活かすものはありますか。」というご意見です。これについては、旧町時代からそれぞれの町で宅地造成を行っており、平成11年度から17年度まではその効果として毎年50名から100名程度の町外転入者がありました。そのことから平成16年度と17年度の人口推移で93名の増加が出ています。今後は既存家屋の活用等も含め、特に若者世代の定住施策を検討することとしています。続いて65歳以上の人口推移について「65歳以上の増加とともに、65歳以上でも仕事を続けている人が増えていると思うが分析されていますか。」というご意見です。平成22年国勢調査結果によりますと、町内の65歳以上の方の就業者数は906名となっています。これは高齢人口全体の約26.3%を占めております。うち586名が農林業従事者で単純計算で320名の方が農業以外に就業されていることとなります。これは高齢人口の約9.3%にあたります。平成17年国勢調査時は、それぞれ31.3%、9.7%という結果でした。比率的には減少しておりますが、高齢者雇用の法整備により今後は65歳以上の就業者数も増加すると考えられます。次に将来の人口推計についてです。「確実に減少する人口に対して、直視して対応策を「前向き」に講ずる必要があります。」というご意見をいただきました。これについては、現在、副町長を中心として少子化対策プロジェクトチームを設けて議論を進めております。これは20歳代から40歳代の定住人口の確保を目指すもので、多様な事業について検討をしているところです。今後は具体的実施に向け予算化等を進めていく予定です。是非取り組んで行きたいと考えているところですのでご意見をお願いします。続いて財政状況の推移についてです。「23、24年度ともに健全基準とのこと。職員のモチベーションとの関連は分かりますか。」というご意見です。平成24年度の健全化判断比率の主な改善要因は、地方債の発行を返済金の範囲内で借り入れたり、高利率で借り入れた地方債の繰り上げ償還を行ってきたことにより地方債残高が年々減少したこと、普通交付税に算入される有利な地方債以外は発行しない方策を行ってきたことによります。また、各職員のコスト意識の向上も当然結果に反映していると考えています。今後も更なる職員意識の向上に努めて参りたいと思います。次の9ヵ年度決算推移については、「普通会計職員数が確実に減少していることは貴重な成果と思うが、職員個々のモチベー

ションはどう変化しているのでしょうか。」というご意見をいただきました。10月に実施しました職員アンケートによりますと、これまでの行革の取り組みのうち一番効果が上がっているのは職員数の削減、いわゆる定員適正化であるという結果でした。しかしその一方で、改革による削減・縮小ばかりでは、職員のモチベーションが上がらないという意見も少数ながらありました。今後とも定員適正化に努めながら、職員の意欲向上につながる行政改革である必要があると考えています。最後、4ページは自由記載でご意見をいただきましたものです。まず、目標数値をスタート時に決めておかないと3年間はあつという間ですと。評価レベルを明らかにして取り組みをして欲しいという意見をいただきました。是非そのような形で進めて行きたいと考えております。次に、地の利を生かすということで、米子から30分の立地条件を活かして米子で南部町を売りましょうというご意見をいただいております。竹スルメの町内外の販売を役場と連携して進めて行きたいということでございます。以上が意見に対する事務局からの対応という事で説明いたしました。引き続き、第三期大綱に入りたいと思います。前回の委員さんからの意見に基づき修正した点、それから副町長の挨拶でもございましたが2点ほど追加している点について説明をさせていただきます。2ページ目後段、東日本大震災を受けてということで、前回安川委員さんからだったと思いますが、原発についての記載が必要ではないかということでした。今回町の原発からの位置を踏まえて少なからぬ影響があるということを入れさせていただきました。原発から約37キロ、法勝寺庁舎の位置ですが、原子力発電所の事故が発生した場合には、少なからぬ影響が考えられます。また東南海地震というものも同様に今後新しい備えが必要ですので、理念・考え方を入れさせていただいております。それから3ページ目のところです。これは目標と表現を合わせて「安全で」と入れております。次に4ページ目、具体的な方策の(1)経営的視点による事業運営、先ほど副町長からもありましたが青少年の減少に対する対策が大きな行政課題ということで、何につけてもそれが大前提に来るんだという視点から、「少子高齢化・人口減少社会に対する積極的な対策」として大綱に位置付けまして、具体的に実施計画の中で取り組みを定めて行きたいと思っております。もう一点が、「人口減少社会に備えた企業会計の健全な運営」。これについても先ほどありましたが、水道統合の課題もございまして、行政改革に位置づけをして課題解決に取り組んで行きたいということで書かさせていただいております。5ページ目です。(4)歳入の確保と増加策のところでございます。「定住につながる安全で安心して暮らせる町づくりのためのインフラ整備」これについては、是非外向けの発信をして欲しいという会長さんからのご意見がございました。そういったことで具体的な方策は実施計画によるとさせていただきますながら、考え方を位置づけさせていただきました。続いて6ページです。(2)協働によるまちづくりの推進について。「インフラ整備」を入れさせていただきました。これについては、同じく外向けの発信という事でご意見をいただきました、地域の事情は地域の方が良く知っているのだから協議会があるという強みを生かして、一緒になっ

| | |
|--------------|---|
| <p>仲田会長</p> | <p>て外に向けて発信をしてはどうかと。そういう観点からの追加と、更には施設整備についてもご意見をいただきながらということで入れさせていただいております。7ページにつきましては先ほどの原発の件と同様でして追加をしております。以上、前回からの修正点を説明させていただきました。ご意見をいただければと思います。</p> <p>今、資料1と資料2の説明がありました。これにつきまして何かございますでしょうか。</p> |
| <p>田中委員</p> | <p>先だって「限界集落」という本が出ておりました、読んでおりましたら実際は千葉県のどこかの集落を基本にした小説のようだが、その中で読まれる方でいろいろ違うかもしれませんが、一番思ったのが、人口が減少してたまたまその集落あたりはほとんど65歳以上と3、4人の孫が住んでいると。人口を増やそうとして町役場でよく言われているような空き家を利用して人を呼ぶということを模索されている一方で、若い連中が定住を求めて集落に入ってきた時に何の収入を得させるかということで、減反してあったところ或いは荒廃地を開墾して、カブ、ネギ、イチゴ、トウモロコシ、それらを作り出した。次はどこに販路を求めるのか。本によると農協を一本にした窓口でずっとやっていたが、それでは値段も販路も拡大出来ないということで、新しく移り住んだ人を使って販路拡大にあたりだした。東京の方の八百屋さんとか現代版のスーパーに直に行って販路を求め、一方ではパソコンを使った販路拡大を行い、最終的にはある程度成功したと書いてあった。それを見ても、定住・人を増やすという事はどこでも考えられ、全く同じでは無いにしても近いような方策が採られている。何で収入を得させて、生活費を稼がせるかということが主体になっている本だと思って読みました。大綱の側面にも同じようなことが出ていますが、やって来る人、40代50代はやって来ない。30代、65歳以上、いわゆる中抜きの年代しかやって来ないようである。どこでも同じようだという事になれば、そこらへんに焦点を絞って人口増の方策を採って行かれた方が良いのかなと思いました。本とは地域事情が違うと思うが、農業に限らず企業が人を求めてくれれば一番良いが、それが望めないという事であれば農業従事者の増、後継者の増が同じように言われてますが。安定して売れる販路の確保、それらが求められるのだと本を読んで感じました。</p> |
| <p>仲田会長</p> | <p>いかに人口減少に対処するかということで、大綱の4ページ「少子高齢化・人口減少社会に対する積極的な対策」、これになるんだろうという具合に思います。方策は田中さんが言われたようなことや、それに限らず色々な方策を行政で考えていただきたいと思いますがいかがでしょうか。</p> |
| <p>陶山副町長</p> | <p>今おっしゃられた通りだと思います。全国1700からの自治体と同じベクトルで動いております。その中で南部町だけが一人勝ちするだとか、一人負けすることは出来ますが、一人勝ちすることは出来ないだろうと思います。アイデア勝負でやっていかないといけないことだと思いますが、若い人たちと話をすると同じ社会に生きながら違う景色を見ているんだなとつくづく思います。例えば私は58歳ですが、日本の黄金の50年60年を生きた世代と全く</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>目先が頑張っ勉強して一流大学を出れば一流企業に行っ安定的な社会が待っているんだと教えながら一生懸命勉強したんだけどもその価値観が見い出せないという若者が5万と今の社会にいます。例えば今言われたような、生き方として山村に住んで国の補助金を300万円もらいながら、地域の人と溶け込みながら、中山間地の元気を出すような新たなビジネスホテルを作ってみてやる。これは傍から見るとすばらしい若者の考え方ですが、ご家族にしてみればとんでもない話でして、そんなことで飯が食えるのか、嫁がもらえるのかと。まさにここだと思っます。やってみるよと言うのか、言わないのか。前の病院の管理者の長男さんはまさにその例でして、経産省のキャリアをされていっ、今は島根県に帰って農業をされていっ。有能な人たちが山間部に入ってインターネットや、有機農法に近いものをしながら楽しみながらやるような時代が来っています。その一つの集落の中に30代のご夫婦と子どもが2人でも生まれることによってその地域がいかに活気づくかということは研究済みでして、そういうことを一つの目標にしてやってみたいと思っています。明日、臨時議会がありますが、目標値として南部町の合計特殊出生率が1.31、これは県下最低水準です。どこに原因があるのか研究してみないといけませんが、やはり合併前は一生懸命住宅造成をやってきたことが小泉内閣の改革によって、そんなことをしておられないと。人員を減らしながら明日の生活、今日の生活を考えたところに手を入れてなかったために、定住をするような箇所を拡張が出来なかった。従ってこの10年間で、90名くらいだった子どもたちの出生が今年、去年と68名になりました。あっという間に50名を切って40名台になってしまう。これが一番驚異だと思っ。出生率が県下では湯梨浜町が一番高いのですが、このあたりの1.80、それから1年間に生まれる子どもの数を88名、20名増やそうということを議会に言って、向こう3年間全力を挙げたいと言ったいと思っています。今なら間に合うと思っていますし、若者定住と言う問題と少子化という問題も近いようで違った問題があります。成功事例というものをその子たちが全国に発信することで、2人目3人目の勇敢な若者が入ってくることも可能だと思っますので、私たちがどれだけ受け入れられるかだと思っます。私たちの価値観によってその人たちの人生を少し痛めつけていっのではないかなと思っておっります。目標値というものを持ちながら、行政もやって行こうと思っています。</p> |
| 仲田会長 | <p>限界集落と言うのは、この前テレビを見ていたら日南町で大阪の人が来られて、トマトを作ったり米を作ったり。集落の人の協力もたくさんあるようです。周りの人がサポートしないとなかなか来られないという状況。またそれが出来るように役場が体制を作る。</p> |
| 種委員 | <p>限界集落は南部町でも既にある。3軒しかない、葬式も出せないような集落がある。そこに住んでいても嫁さんが来ない。どういっ集落運営をしておられるか分からないが大変な事。もう一つ、ハザードマップですが、貰っっていたが現在所在不明です。大きいのはあるに越したことはないけれど、集落単位、集落周辺のをまとめてもう一度配布が必要ではないでしょうか。</p> |

| | |
|-------|---|
| 加藤課長 | <p>ハザードマップは今印刷に出してござりまして、前のより小さいサイズで2枚セット。新たに県が指定したところを加えて、配布できるように印刷に出してござります。</p> |
| 種委員 | <p>うちの近くでも土石流危険地帯、計画は早かったけど後から出た2つが着工になって工事着手出来ていません。県土整備局にも話をしたんですが、こじれにこじれて県の段階でも駄目だし、町段階で後押しでもしていかないと。事故が起きたら誰が責任を取るのか、責任を取るところがない。ゲリラ豪雨も現実に12号で越流して敷地に入った、放置できない。この辺も介入していただきたい。それから少子高齢化の話で、何年か先には学校が成り立たないということが分かっている。学校統合もなかなか出来ないのは分かりますが、例えば片方、西伯小学校・法勝寺中学校を小中一貫校、区域はオープンにするとか。また保育園、コスト引き下げで民営化など工夫しておられるのだけど、思い切ってこども園に格上げして、それだけの仕掛けをやりながら、尚且つ若桜町が先発で手を挙げたようですが、半分は国費の補助があるようですので、その辺まで無料化して、南部町に行くを入れるぞと。工業団地を作るのも大事だが、ここで一人勝ちは出来ないで、すっぽん商法ではないけども米子からすぐ隣ですし、定住圏にして魅力を上げていけばもっと人が来る可能性はあると思います。実際米子市にこども園がどのくらいあって、保育園・幼稚園のデータは全くありませんがその辺まで思い切らないといけないのではないかと思います。どこの学校も部活が全部出来ない状態。行政として自治機能を維持していくためにはそこまできないとダメだろうと見ています。</p> |
| 仲田会長 | <p>ハザードマップは準備をされていると。これはいつごろ出ますか。</p> |
| 加藤課長 | <p>2月に印刷の工期を持っていますので、新年度には配布できます。</p> |
| 仲田会長 | <p>ハザードマップは配るばかりではなく良い具合に説明しないと、理解してもらおうようにしないといけない。</p> |
| 加藤課長 | <p>今回、行政組織のことがありまして、組織再編、課の再編だとかをこれからやっていかないといけないと思っております。ここでお示しは出来ませんが、来年度に向けてになると思っておりますがそこは町の方でやって行きたいと思っております。この4月には組織の再編をするということをご了解いただきたいと思っております。その中で防災監というのも設置して行きたいと思っております。今まで外に出ておりませんので積極的に来年度は出ようと思っておりますのでよろしくお願いします。</p> |
| 仲田会長 | <p>学校の統廃合という大きな問題について。そのことについてはどうか。</p> |
| 陶山副町長 | <p>小中連携、教育長がよく言いますのは、小学校6年、中学校3年を9年間の義務教育期間と捉え南部町がこの義務教育にきちんと責任を取るんだと。更には3歳から入学までの連携を取った12年間をトータルで責任を持つような教育のシステム化をしなければいけないということで、中学校や小学校の校長や先生方と目合わせをして来ています。保育園にも小学校の先生に入ってもらって子どもの成長をトータルで見えていかないといけない。もう一つは中学校の問題です。中学校の問題でよく言われるのは、南部中がクラブ活動の選択が極</p> |

めて少なくなつて法中にサッカーをしに来る子もいます。先日、他の町の先生方とお話しすることがありました。先生も困っておられる。一流の選手だとか、言ってみれば県の西部でガンガン勝つようなクラブ活動を求めるのであれば今の学校では無理だと。子どもがどんどん少なくなつて、パイの取り合いになる。出来る子は結局米子市の陸上競技の塾に通いながら技を磨く訳です。西伯のバレーボールは今度全国大会に行きます。それはたまたまのぼせもんの指導者たちがいて、小学校の子を鍛える。ですが法中に行けば一般の女の子になってしまうということを心配する。中高一貫教育のなんとかという私立の高校に行かない限りせつかくの全国大会レベルのスキルは落ちるでしょう。私たちが思っていたような子どもたちが沢山いる中で色んなスポーツや武道なんかも含めながら、県大会に行ったあの子はすごいというようなことを求めるということは、今の学校教育の中では無理です。だから合併して子どもをたくさん集めて、じゃあ合併する目的がスポーツを盛んにするために合併できるのかということもありますし、ただ運営上、1クラスの中学校が本当にこれからの社会の中で良いのかどうか。中学校を一つにするというのはこの10年間の中でもっと議論が生まれるかもしれません。ただ小学校と言うのは一定の地域に近いところで地域に育ててもらおうという観点からは、やはり何としてでも子育て支援、少子化対策をしてでも今の体制、二小を置いておけば、会見小学校、西伯小学校の体制を維持できるような少子化対策をしないといけないのではないかと思います。それから認定こども園についてはおっしゃられるとおりでして、認定こども園を南部町の中でも作らないといけないという方針だけは決まっております。若桜町はまだ決定してませんが、県内で3つの中山間地の町が保育園無料化を県と打ち合わせをしているようです。今日は行政懇談会で知事と市町村長が議論する会で、町長がこの保育料の問題を提案していると思います。南部町くらいの中くらいの町で無料化と言うのは気持ちはあるのですが、やった時の費用負担があまりにも大きい。これから先も無料化を続けられますかと言われた時に、県が半分の負担はダメですと言われた時に、自立して南部町が保育園のために出来るかというところちょっと自信がないです。今、第3子はタダです。第2子も無料にしますとか、どこかで明確な線を作ってそれに対して県は支援をしてくれるのかという議論をしているのではないかと思います。全額無料化と言う気持ちはありますが、なかなかそういう訳にはならないということがございます。それから台風の問題だとかハザードマップの問題は、とにかくもう一度仕切りなおして、防災体制をしっかりとせんとおっしゃって思っています。南部町の西伯地区にしても会見地区にしても川が流れていまして、水位が法勝寺であれば2mぐらいになります。1階で寝ている老人はおぼれ死んでしまいます。そういう実態でどうやっていざという時に人を助けるのか。100年に1回あるかないか分かりませんが、現実それは毎年日本のどこかの町で起こっています。そういうことを想定しながら真剣に南部町としても防災体制というものを住民の皆さんと議論していかないとおっしゃると。今言われました流れて来るのをハード事業でなんとかするというのもこれも勿論町として真

| | |
|--------------|---|
| <p>種委員</p> | <p>剣に考えないといけないことですが、それではどうも追いつかない。この異常気象のすさまじさっていうものに追いつかない。まず逃げる。どこに逃げるのかとか、そういうことを普段から振興協議会などと調整しながら話し合いたいと思います。こればっかしは高齢者の皆さんの経験を超えて異常が起こっておりますのでご理解をいただきたいと思います。</p> <p>地域防災の見直し、作り直しをしていかないとバラバラです。今日の火事なんか聞いてみると消火栓だけでやって、あとはニュータウンから下がった配水川を主としたのでなかなか水が。川の縁でいつもあふれるような所でもそのような状態ですので全体を見直してどうするか。</p> |
| <p>仲田会長</p> | <p>防災対策の強化と言うようなことだろうと思いますので、7ページの住民との連携による災害に強いまちづくりというところになるのかと思います。</p> |
| <p>林原委員</p> | <p>平成26年度は10周年という事。是非副町長に検討願いたいと思います。先般、関西南部会を開きましてあの中メンバーで2人ほどこの春帰って来ると小耳にはさんだんですが、もちろん赤ちゃんがいるのがベストですが、私どものように最初の会社を定年になって次の人生、是非南部町に戻って来いと。あご牛でもそういう取り組みをしているのですが、私も55で帰って来ました。もう一人家を直して帰って来ようとしています。家を捨ててはないんだけど、都会に出てしまい仕事を終えて子どももいる、というのが結構いると思います。南部町内の移動はまだ良いが、外に出てしまっ帰りたい人に空き家情報・貸家情報を。65歳を超えてもまだ働けますので、65になると年金を貰えますから最低賃金ギリギリの仕事もある訳です。南部町で第2の人生の受け皿を。是非お願いしたいのは、10周年を記念して出ている人たちに今の町の目標、1.31から1.80ということ、そういうことを出た人は知らない。人が減っているようだから具体的に知らない。関西南部会のネットワークも捨てたもんじゃないので100人いれば1人くらい帰ってやるかなという者がいるかもしれない。10周年、ちょうど良い年なので。</p> |
| <p>陶山副町長</p> | <p>ありがとうございます。やっぱりあの先だってもシルバー人材センターというのがありますが、ミドルの世代の皆さんが生きがい対策に仕事をしながら小遣い程度のお金を得るといって謳い文句で始めていますが、今そんなことを言うと失礼なほど若い方が多い。その人たちの仕事が結局は庭の草取りだとか、結局ニーズとマッチングならない訳です。もう少しやった感があるような仕事が出来ないかと。一番シルバーの皆さんにやりましようと言ったのは、関西南部会だとかそういうところに一緒に出て行って、例えばお宅の墓を掃除してご仏前にお花を供えるからとか、そういうビジネスをやろうと言うがなかなか色気を出してもらえない。是非そういうところから支えていただけるようなそんなものを。</p> |
| <p>仲田会長</p> | <p>都会から地元に戻って来られるような施策をということですね。6ページ協働によるまちづくりの推進の中の定住施策の強化、この辺に該当するんだろうと思います。さっき言われたように大阪の県人会、東京にもあるでしょうが、いたるところでそういう色んなものを発信しながら状況を教えてあげるとい</p> |

| | |
|--------------|--|
| 陶山副町長 | <p>う、PRしていただければ良いかもしれない。</p> <p>IターンだとかJターンには力を入れたり補助金を付けたりしますが、Uターンはあまりないですね。</p> |
| 林原委員 内藤委員 | <p>沢山はないと思いますよ、1本2本釣れば。</p> <p>5ページの(3)に公共施設の効率的・効果的活用の促進というところがありますが、法勝寺地区地域振興協議会は、さいはく分館の指定管理を受けております。協議会の活動拠点、事務局と言うのは7つの振興区で指定管理を受けているところが企画政策課であったり健康福祉課であったり、教育委員会であったりという風にバラバラになっている。基本的には私は地域振興協議会というのは企画政策課で一本化していただきたいという気持ちを持っているのですが、それは置いておきまして、公共施設の効率的・効果的の部分でさっきも南部町が合併して10周年になるということで10周年を記念して色んな取り組みもあると思います。現実的にさいはく分館の建替えという問題も水面下ではあるという風に聞いております。本当に南部町という全体を見て、こういう公共施設が本当に効率的に活用されているのかどうなのかというところをもう一度町の方で検証していただきたい。そしてそれを今後の部分で活かしていただきたいと思います。それは一つには取り組みの項目の中に受益者負担の原則による施設使用料の見直しも含まれていますが、本当に公民館活動、社会教育の部分で本当にどうなのかなという若干疑問に思っております。特に活動を色々されている部分で具体的に言うと、コピーを使わせて欲しいと。指定管理料に入っているのですが、活動される方々が負担できるようになった方がむしろ私は良いのではないかなと思っております。もう一度公共施設、指定管理等も含めながら検討してもらって効率的にこれから先の南部町の社会教育とか色んな部分をやっていく部分は本当に良いものなのかどうなのかというところを検討してもらいたいと思います。最初の話に戻りますが、地域振興協議会というのは教育委員会の指定管理と言う形ではなくて、企画政策課一本になった部分でやっていけるように。協議会の横の連携も取れるのではないかなと思っている。うちは来年度、防災、集落の防災訓練などを行いながらそれを通じて集落住民のコミュニケーションを図っていくということを協議会中心でどうやったら良いのかということで是非やって行きたいと思っている。そういう意味で地域振興協議会と言うのは本来、公民館と言うような社会教育の部分では無くて地域に密着をした集落のセンターみたいなところに事務局があって、そういう形で南部町全体で皆さんで協力してやれる部分があればなと感じている。そういうようなことで公共施設の見直しをやっていただければと思います。</p> |
| 仲田会長 | <p>公共施設にも色々ありますが、そういうところの利用状況と言うことですか。</p> |
| 内藤委員 | <p>利用状況も含めてですが、会見と西伯が合併してお互いに持ってますよね。そういった部分をこれから先の町の色々な活動の中において、不要なものは不要なものとして、南部町はそんなに広い土地ではないと思うので、交通機関が</p> |

| | |
|-------|--|
| 仲田会長 | <p>発達はしてはいるけど黄色いバスを活用しながら、それからお年寄りのデイサービスセンターに行かれない世代の方もおられます。地域交流センターのようなものに様変わりできるような部分を考えながら検討していただきたいということです。</p> |
| 陶山副町長 | <p>より効率的な運営促進ということはどういうことを指しているのかということですね。</p> |
| 仲田会長 | <p>全国的な流れですが、今は図書館なら図書館、公民館なら公民館、農林系の改善センターなどが建っていますが、耐用年数が過ぎて大規模改築するのかなのかということも時間の問題で、次の世代が必ず乗り越えないといけない課題で残っています。潰してしまうのであっても同じものを作るのは止めましょうねということ。この機能もこの機能も統合して使おうやと。そういう統合型のものを一つ作ればそれで良いではないかと。公民館は公民館で作って、プラザ西伯も作って、会見ではこの施設が無くてはいけない、そういう議論をしているとやはりまた公共投資にたくさんのお金がある。どんなメニューでどんなサービスをして行くのが大事であって、建物はその時その時の高度成長の中で生まれてきた感があるのですが、もう少し複合施設で何でも使えて地域の人に喜んでいただける、確かに距離の問題だとか色々な問題がありますが、それを乗り越えないと10年後20年後の町のビジョンが見えない。</p> |
| 内藤委員 | <p>例えば図書館だとか、デイサービスセンターだとかの利用状況を周知した方が良いということですね。</p> |
| 仲田会長 | <p>そこまでではなくて、副町長が言われたようなところで、これは無駄ではないかとか。将来の南部町を見据えて、どんな風にこの公共施設をやって行ったら良いのか、そこをどういう風に活用するのかなど。住民にとって大切な事なので。</p> |
| 陶山副町長 | <p>5ページの(3)に書いてあることを積極的に検討して欲しいということで良いですね。</p> |
| 田中委員 | <p>それはどこの首長も言っておられます。どうやって選択して廃止という勇気を持って臨むのかと。一度作れば50年間皆さんに負担を強いる。減価償却で負担を強いる。典型例は水道です。水道は地下の中に入っていますから分かりませんが、あの中には莫大な投資したものが。管路は減価償却40年間。そこのお宅が1軒無くなればそれは無用の長物ですが、借金は50年間孫子の代まで払い続けなければならない。そういう宿命を背負ったものでして、あまり目立ちませんが人口減少社会の中では大きな問題になって来る。ライフラインとどうバランスを取って行くのか。毎日の生活に向き合っている人々のことをこう議論していても、ではどうするつもりだという事になるのですが、時々行政の方もその問題を見ていただかないと、ややもすれば安い方に行く。この安い方が良いという負担は必ず将来の人たちが負担しなくてはいけなくなります。そういう大事なこともこの背景にはあるということ。</p> |
| 田中委員 | <p>地域振興協議会が指定管理になっている、課が違うところの指定なんかもあるのですか。</p> |

| | |
|-------|---|
| 加藤課長 | 協議会が使われている場所、建物を管理している課がありますのでそこからの指定管理になります。振興協議会は企画の中で動いている訳ですが、指定管理を見たときに。富有の里は違う会社が指定管理をされてますからそこを使用しているだけとなります。法勝寺は公民館の管理も含めてそこを使っておられる。天津は交流センターを管理しながら入っておられる。公民館は教育委員会、交流センター、大国田園スクエアは企画、両長田も企画。 |
| 田中委員 | 基本的には分かりました。では予算立てされる時にもその課が全部要求される訳ですね。役場の方でそこから出て来たものを斟酌されて、調整されて予算を立てられる。 |
| 加藤課長 | 指定管理は審査会がありまして、これは役場の組織では無く、自分が入りますがあとは外部の人で構成する審査会がありますので、そこで検討して審議してもらおう。その中で出された費用とこちらの費用を予算的な面ですり合わせながら管理をお願いします。ただ担当する、最終協議をしてもらうところは原課で話をしてもらおうという形になります。 |
| 種委員 | 先ほど水道のコストとかあったのですが、たまたま私の班で消火栓の移設の話が出てまして、管路の確認で、水道はほぼ図面が散逸して完全なものが拾い出せない。マンガのようなもので十分な地図がない。管路も睨んで真ん中よりあっちかこっちかぐらいしか読めないような形。下水道については、図面がきちんと残っていて深さも分かる。これからも生じることですが、長期保存文書の電子化、紙なら20年も経てば読めなくなるし。外部委託でも良いので電子化をしていただけたらと思います。県も20年経たないうちに記録がないと。50年も引っ張らないといけないようなもの、重要な図書を何とかきれいな形で残る方法を検討いただきたいと思います。 |
| 仲田会長 | 今コンサルに委託するのはフロッピーではないですか。 |
| 加藤課長 | 両方あります。古い分の電子化という話ですね。 |
| 陶山副町長 | 水道の特に古い管路が明確なものがないものがあります。昭和30年代から40年代。職員が長く携わってくる、その職員の頭にあるものを元気なうちにきちんと図面化しておかないといけない。 |
| 林原委員 | 正月の日本海新聞でしたが、山陰を活性化しようという対談があって、米子のアジェンダホテルを経営されている方が赤猪岩神社を取り上げていただいておりまして。是非もっと外向けに発信してもらえれば。去年出雲大社もたくさん人が来た。あそこも復活した地だと言われており、貴重な財産だと思っている。10年の中でも入れていただければありがたいと思います。 |
| 陶山副町長 | 一つには売り物が無い。非常にビジネスのチャンスですが。うまく波に乗ってということが出来ていない。地域振興協議会、地域の婦人会の方がやるともっと良いのにとか言っている間にブームが過ぎてしまう。 |
| 仲田会長 | 赤猪岩神社に限らず町内の財産を。 |
| 種委員 | 資料1のIIの基本方針に実施計画は単年度ごとに達成目標を定めて取り組みたいとありますが、最初の会でありました評価一覧表でその時も言ったんですが、達成度が○△×で出て課の名前が無いということ。全体的に図る数値目 |

| | |
|---------------|--|
| | <p>標が無かったということが反省点で出ていたのですが、出来るだけ次の時は数値化出来るものはして、ここまで出来た、ここまで出来たと。悪いところもあれば課の名前も出して欲しい。外に出す必要はないので。なぜ出来ないかというところは審議会でチェックすればよい。一つは日本海新聞だったと思うが、納税とか賦課金の自動振替率が収税の割合に比例していると。松江と安来と出雲と浜田のデータがグラフで表示してあった。島根県の口座振替率が高いのは納税組合の廃止の時に自動振替に集中して切り替えた。米子市はそこまでではなかったという結果が出ているような、そういう表現であった。徴収率が何パーセント、何パーセントとなっているが、口座振替率を何パーセントまで上げるとかも是非やっていただきたいと思います。それから公共下水と農集の地区別利用率、徴収率を見せていただきたい。</p> |
| 仲田会長 | <p>一つずつ。まず評価を明確にして欲しいと。それは資料1の一番最後4ページのところと同様ですね。それから上下水道は。</p> |
| 種委員 | <p>利用しない、繋がらないという理由を一つずつ明らかにしていく努力がないと。</p> |
| 橋谷委員 | <p>協議会の構成が年代が上がっています。若い人の意見、若い人も構成には入っているのですが、日中はなかなか出られない。町内の財産は人材ではないかと思っています。財政を健全化しようと集中していますが、何かに挑戦することが大事ではないかと。面白いことに向かって行く人材があったら良いなと思う。新春座談会にたまたまうちの息子も出ていましたが、有機農法、面白いなと思った。今みんなが健康志向になっており、お金を出しても良いものが食べたいという意識がかなり出てきている。その辺の農業、面白いと感じた。10年近く前になりますが、湯梨浜町に四国から若い人が嫁いで来られ、すごくイキイキと農業に取り組んでおられる方に会う機会があったのですが、大人が制限するのではなくてどんどん挑戦する町にしたいなと、再活のまちにしたいなと思いました。</p> |
| 仲田会長 | <p>若い人の色んな意見を無下に断らずにやってみて、それが定住につながればということですか。</p> |
| 橋谷委員 陶山副町長 | <p>町が全面的に支援するとかということでは無いですが元気が欲しいなと。この春から若い人の起業に行政が黙って金を出そうじゃないかと。失敗するかもしれませんが、やろうという事が地域の元気だとか新たな可能性を生むと思いますのでそういう支援をしていこうかという議論をしています。</p> |
| 橋谷委員 | <p>私たちの祖先もそういうところから出発して失敗しながら来ていますので、失敗するのは当然で、それを自分で学んで行ったら良いと思います。</p> |
| 仲田会長 | <p>その他よろしいでしょうか。それでは、これからの社会変化、例えば TPP だとか色んな社会変化、この大綱以外のことが出る可能性が高いと思います。これに縛られずにそういった問題が出たときには適切に対処してもらおう柔軟な発想を持ってもらえればと思います。ここでまとめたいと思います。初めに限界集落対策の提案、これは4ページの少子高齢化対策のところでも検討してもらおうような格好でしていけばどうでしょうか。それから小中一貫連携、こ</p> |

| | |
|---|--|
| <p>田中委員</p> <p>仲田会長</p> <p>仲田会長</p> <p>前田主幹</p> <p>仲田会長</p> <p>仲田会長</p> | <p>れも少子化対策のところ得手入れしていただければと思います。それから認定こども園についても4ページで。防災対策については7ページ、危機管理体制の強化のところをお願いします。それから公共施設の有効利用は5ページのところでしていただければと思います。それから若者意見の集約については、こういうことも4ページの少子高齢化のところだと思います。ということで先ほど皆さんからいただいた意見はこれに網羅されておりますが、これで良いでしょうか。それで附帯意見とするという事ですが、先ほど少し話しましたが、社会情勢に対応して欲しいということをつけさせてもらえたらと思いますがどうでしょうか。</p> <p>おっしゃるとおりだと。基本的にはこれに沿ってやっていただくにしても日々情勢はどんどん変わって行きますし、今日やっていたことが明日くらくと変わってしまって、小泉さんの原発ではないけれど、時代変革がすごいものですからそれに応じた、施策変換とまでは言いませんが沿ったものに準じ対処していただくようなやり方をお願いしたいと思います。</p> <p>田中さんの方からもありましたが、そのことを附帯意見として書かせていただくということでよろしいでしょうか。それでは一応大綱については皆さんから意見をいただきましてこれで審議を終えたいと思いますが、附帯意見として先ほどの意見を付けさせていただきたいと思います。それでは事務局の方に答申作成の作業をしていただきますのでここで15分休憩を取りたいと思います。</p> <p>それでは再開したいと思います。皆さんの方に大綱についての答申という事で配ってもらいました。事務局に読んでいただきます。</p> <p>(答申読み上げ)</p> <p>今読んでいただきました、こういう具合でどうでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>そういたしますとこういうことで答申を出したいと思いますので、よろしくをお願いします。</p> |
| <p>【日程3】</p> <p>仲田会長</p> | <p>【その他】</p> <p>これを町長さんに答申することになります。どうでしょう、私と田中副会長さんと町長さんの日程を確認しながらさせていただくということで良いでしょうか。それでは私と田中副会長さんと町長さんの日程に合わせて答申したいと思いますので、よろしくをお願いします。</p> <p>これで審議会を終了したいと思います、色々お世話になりました。ありがとうございました。これで終わりではなく、答申に沿って町の方がいかにやっておられるかを評価したいと思いますので、その時は厳しい目を見て、良い南部町になるようによろしくお願いします。</p> |

以上、15：15終了